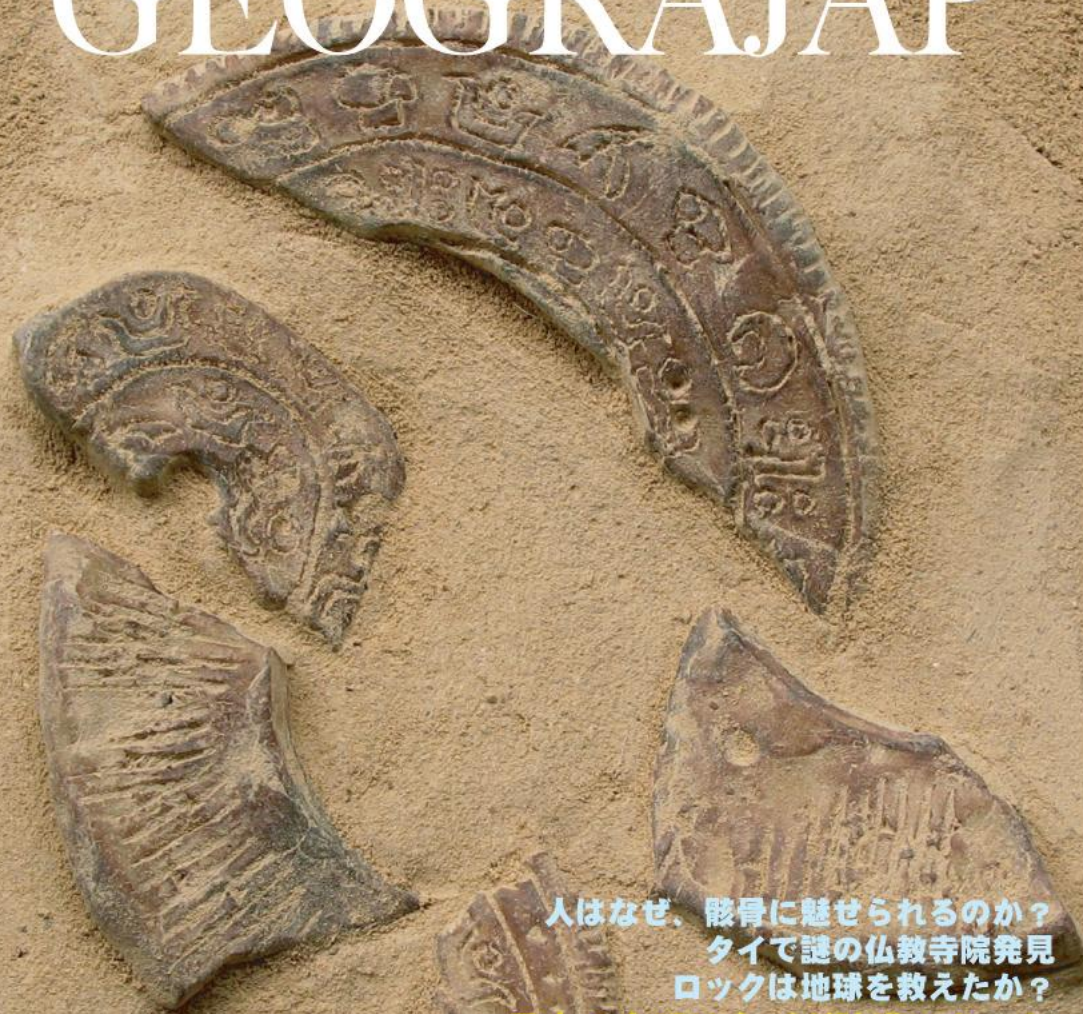


2008年6月25日発行
第1巻 第3号
2008年7月号



ナショナル
ジオグラフィック
日本版

NATIONAL GEOGRAJAP



人はなぜ、骸骨に魅せられるのか？
タイで謎の仏教寺院発見
ロックは地球を救えたか？

最古の文明はネバダ砂漠にあった

紀元前1万2000年 ネバダで円盤文字発見



Sin/GUILD-UNIT CLUB

〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町旧道 3-12

TEL & FAX : 0267-42-6269

夏季のみ営業 4月15日～11月15日 (毎金曜～火曜、営業) ★7月20日～8月31日は無休。他は不定休

人はなぜ、 骸骨に魅せられるのか？

メキシコでは毎年 11 月 1 日と 2 日に“死者の日 (Day of the Dead)”と呼ばれるお祭りがある。先住民時代の骸骨信仰とカトリックの万聖節と万霊節が融合したメキシコ独特のイベントだ。さらに近年、“死の聖人 (Santa Muerte)”と呼ばれる聖者の衣装をまとった骸骨が密かに信仰対象になっている。2001 年には貧困地区の民家に教会まで誕生し、信者は 250 万人以上にもなっているという。こうしたメキシコ人の骸骨に対する愛情は特別なものに映るが、実は日本でも昔から骸骨を縁起の良い魔除けとしていた。今日においても若者がファッションとしてスカルリングで身を飾っているが、無意識の中でそうしたものを求めているのかもしれない。若者に人気がある街、東京・吉祥寺のあるブランドショップでは骸骨柄の浴衣まで売っているらしい。



読者の皆様へ

©JAP Inc.

●「ナショナル・ジオグラフィック」の内容はすべて、架空のものです。実在する団体、個人とは一切関係ありません。

●「ナショナル・ジオグラフィック」の内容の全部、または一部を無断で他のメディアに転載することを禁じます。著作権はすべて JAP 工房に帰属します。

●参考文献：「日本文明の謎を解く」(清流出版社)、「文字の起源と歴史」(創元社刊)、「消えた古代文明」(講談社刊)、「古代遺跡ミステリー」(教育社刊)、「超古代オーバー・ファイル」(学習研究社刊)、「世界の宗教 101 の謎」(河出書房新社刊)

●Photo Jap-Inc, Studio Zimp, Yukio Isogai, Osiris Express (<http://www.osiris-express.com/index.html>)



世界の 秘境から 良い品を。

店長が自ら現地に赴き
仕入れています。
本来であればガラスケース越しで
眺めることしかできない
博物館級の逸品を
間近でご覧頂けます。
収集家のみならず、
研究者からの依頼もあり、
軽井沢の知る人ぞ知る
隠れた名所として
人気を頂いております。



- ①パプアニューギニアで実際に使われていた、亀の甲羅を装飾したお面。森重様が数十年前に現地で物々交換にて入手、当店に寄贈していただいた。非売品。
- ②パプアニューギニアのアンティークお面。
- ③メキシコの民芸品。カラベラと呼ばれる骸骨人形。
- ④中央は出産シーンを再現したペールのアンティーク人形。右隣はアフリカ、マリ製のガラスビーズ、右端はメキシコのロコドール。



Ethnic Blues

長野県北佐久郡

軽井沢町軽井沢 3-3

Tel&Fax:0267-42-0417

タイの山中で 謎の仏教寺院発見

日本人のある冒険家がタイ内陸部の山中で謎の仏教寺院を発見した。放棄されて百数十年は経っていると思われる寺院の敷地内には仏像を初めとする数十体の巨大な像が点在していたという。仏教のどの宗派にも見られない様式を持ったそれらの像から、発見した冒険家は「タイは95%が仏教徒の国だが、文明の発展から切り離された少数民族の住む地域では、土着の精霊信仰と仏教が組み合わさり、独特の宗教に発展することがある」と話す。だが、文明の発展から取り残された少数民族の信仰にしては、寺院の規模が大きく、像の制作技術も高いのがとても不思議だと言う。

外国人の立ち入りが禁止されている地域に偶然迷い込んだ末の発見で、地元警察にカメラも取り上げられてしまったが、この2枚の写真データだけは国外に持ち出すことができた。現地の再調査も許可が下りない。謎の仏教寺院の正体が判明するのはずっと先のことになりそうだ。



ロックは 地球を救えたか？

「ROCK SAVES THE EARTH
ロックは地球を救えるか!？」
が今年も開催された。ベテランから若手までさまざまなロックバンドが登場してイベントは大成功の内に終わったが、果たしてロックは地球を救えたのだろうか？ もちろんそんなことは分かりはしないのだが、こうしたイベントが開かれている限り、地球には未来がある。

ネバダ砂漠で紀元前 1 万 2000 年の円盤文字発見 最古の文明はネバダ砂漠にあった

北アメリカ大陸にも古代文明があった。
しかもそれは今から 1 万 5000 年近くもさかのぼるものだった。
果たしてこの文明はシウダッド・コンダルが唱えていた
あのパラミータ文明なのか？
人類の歴史の常識をくつがえす大発見は
世界中の歴史学者に大きな衝撃をあたえている。





1995年に地元小学生が粘土板の破片を発見。その残りのピースが発掘されて、かつての姿がよみがえる。年代測定の結果、先に発掘された銀製装飾品と同様に紀元前1万2000年前のものであることが分かった。



“ネバダの円盤文字” 発見

アメリカ、ネバダ州の地元小学校にネイティブ・アメリカンの遺物として展示されていた粘土板の破片を足がかりとして、2002年にラスベガスにほど近いネバダ砂漠で発掘調査が始まった。発掘開始から1年後の2003年、紀元前1万2000年頃の石組みの住居跡が見つかり、そこからさまざまな銀製装飾品が発掘された。

そして昨年10月、発掘のきっかけとなった粘土板の破片の、残りのピースが出土した。発掘チームのメンバーの1人で、復元された粘土板を“ネバダの円盤文字”と名づけた文化人類学者のユー・コンダル (Yu Condal) は言う。

「地元小学校に保管されていた粘土板の破片から、私たちはそれが円盤形の一部だと予想をしていましたが、今回発見された残りのピースによって、その予測が正しいものであったと判明しました。それと同時にこの古代文明の大きなヒントを掴むこともできました」

破片を組み合わせて、かつての姿を取り戻した粘土板はあのクレタ島で発見され、未だ解読されていない円盤文字のようだが、使われている文字はまったく違う。これまでに発見されている世界のどの文字にも似てない。未知の文明が存在していたのは明らかだ。

ネバダの円盤文字はどのような目的で使われたのだろうか？ 使用痕がなく、作られてすぐに割られていること、破片の断面にも焼け焦げた痕があることから、故意に割った可能性もあるようだ。もしくは失敗作だったために割られてしまったのか？ 解読作業を進めているY・コンダルは、ある種の儀式や占いのようなことに使われたのかも知れないと言う。

また銀製装飾品やこのネバダの円盤文字が見つかった石組みの住居跡にも謎が多い。生活道具がまだ一切、見つからないのだ。

「住居跡という表現をしたのは、現時点では早急だったかもしれない。出入り口が開放された空間であったこと、遺骨らしきものが見つかっていないことから墓室ではなく、住居跡ではないかと予測しているに過ぎない。発見された粘土板がY・コンダルが予測するように儀式や占いに使われたものだとすれば、ここは祭室のようなものだった可能性もあるね」と、発掘チームのリーダーで考古学者のウロボン・イマカワック (Urobon Imakawak) は説明してくれた。

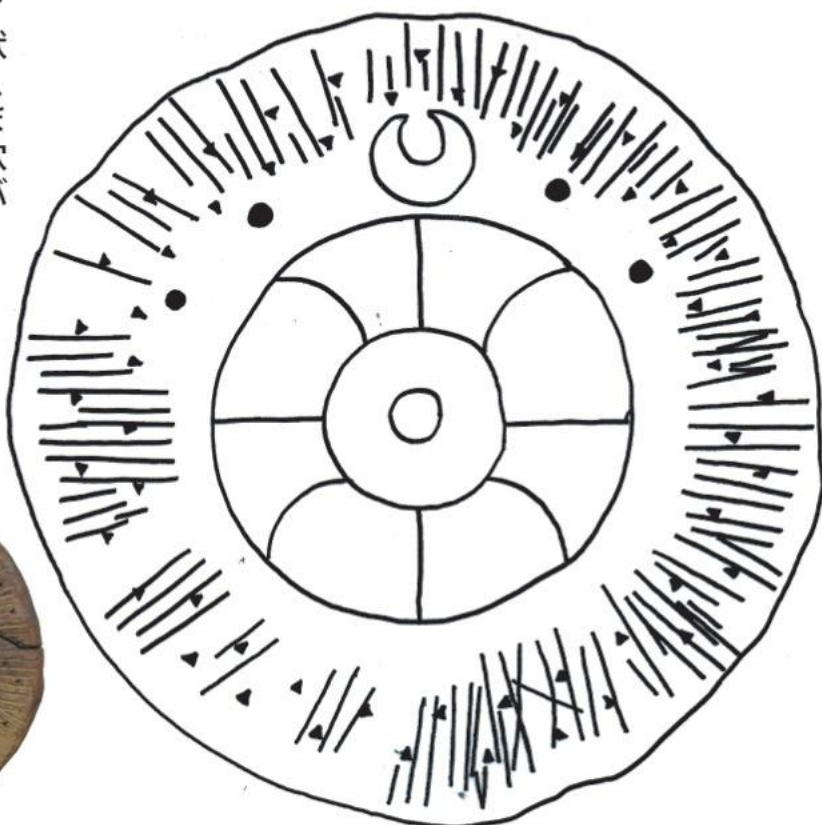
発掘された粘土板のピース (左)。各ピースの断面には、表面と同様の焼けた痕跡がある。円盤を火にくべた直後に割れたか、故意に割ってから火にくべたのか？ 初めに見つかった粘土板のピースは地表で見つかった。そのため、やや表面が風化しているが、後に出土したピースと同様に焼けた跡がある。





“ネバダの円盤文字”を
複写して、線画にした
もの。(右)

地中海のクレタ島で20
世紀末にイギリスの考
古学者アーサー・エヴ
アンスが発見した“フ
アイストスの円盤文字”
と同じように渦巻き状
に文字が並んでいるが、
使われている文字はま
ったく違う。中央に穴
が開いているのもネバ
ダの円盤文字の特徴。



銀製装飾品とネバダの円盤文字

先に発掘された銀製装飾品の中で、特にU・イマカワックが注目していたのが円錐ピラミッドの裏に刻まれていた図形。それと同じ図形がネバダの円盤文字の裏にも刻まれていた。大きな円を中心にその外側に配置された三日月形といくつかの小さな穴だ。「中央に穴があって、まるでCDかレコードみたいにも見えるよね(笑)。我々は便宜的に複雑な文様のある側を“表”としているが、私は円盤文字の裏にある図形にも大きな意味があると考えている。表の文様は何かしらの情報が刻まれていることは間違いのないだ

ろうが、この裏の図形にもある種の情報表現されているんじゃないかと思っているんだ。銀製装飾の円錐ピラミッドとも共通した図形があることから、この裏面こそがA面(メイン)かも知れない」

円盤文字がCDかレコードかはともかく、U・イマカワックの説は、2つの異なる情報伝達表現があったということだ。表音文字と表語文字を使い分けているのかもしれない。いずれにせよ、ネバダの円盤文字の発見によって、紀元前3300年にシュメール人が粘土板に記号を書き始めたと言われている文字の歴史も根本的に覆されたのは確かだ。



円錐ピラミッド形状の銀製装飾品(上)。その裏に刻まれている図形(右上)と、ネバダの円盤文字の裏面の図形(右、比較のため中央の穴は省略した)には共通のパターンが見られる。同心円の2の円とその外側に配置された三日月形状の図形、同心円上に配置された小さな穴だ。記号なのか文字なのかは不明だが、同じルールを用いて、違う情報を伝えようとしていることは明か。





円盤文字とともにネバダで発見されたピラミッド形状の銀製装飾品（左）。テオティワカンの月のピラミッドを彷彿とさせる。年代的には銀製装飾品の方が遙かに古い時代のものだ。

発掘作業の不可解な中止要請

住居跡なのか、そうではないのか、大規模な発掘作業の準備を進めていた発掘研究チームだったが、思いもよらぬ事態に遭遇してしまった。発掘作業とそこから得たすべての出土品が、アメリカの研究チームに強制的に引き継がれてしまったのだ。

「ネバダ州には発掘許可を得て行っていたが、大規模な発掘を準備し始めたときに、アメリカ政府が圧力をかけてきた。自分たちのことは自分たちでやる、とね。発掘開始時に声をかけたときにはまったく興味を示さず、発掘チームに誰ひとりとしてアメリカ人は参加しなかったにもかかわらずにだよ。出土品もすべてアメリカ側に渡したよ」と悔しそうにチームを率いてきたU・イマカワックは語った。

世紀の発見を前に物的証拠の紛失は、かつてシウダッド・コンダル（Ciudad Condal）が遭遇した悲劇的な事件を思い起こさずにはいられない。またしてもパラミータ文明は闇の中に葬り去られてしまうのか？ だが、発掘研究チームはリスクマネジメントを怠ってはいなかったようだ。

「私の祖先であるシウダッドの時代とは違います。出土品を手元から失っても研究が進められるだけの資料はそろっています。それにネバダと関係する古代文明、あのパラミータ文明はほかの地域にも存在していたかも知れないことがわかってきています」

Y・コンダルが言う「ほかの地域」のパラミータ文明とは何なのか？ 謎の古代文明の痕跡は北アメリカ大陸だけではないらしい……。



NEXT ISSUE

「NATIONAL GEOGRAJAP 9月号」は、
8月下旬公開予定。
パラミータ文明の新たな発見をお送りします。